

平成26年度予算見積調書

課室名：森づくり課
 担当名：木材利用推進担当
 内線：4318

(単位：千円)

番号	事業名			会計	款	項	目	説明事業
B67	木とのふれあい「木っかけづくり活動」事業			一般会計	農林水産業費	林業費	林業振興費	木材利用拡大対策事業費
事業期間	平成26年度～平成27年度	根拠法令				戦略項目		
						分野施策	030202	収益を生み出す林業の振興
<p>1 事業の概要</p> <p>材料としての木の良さやその利用意義を学び、木材に対する親しみや木の文化への理解を深める活動である「木育」を今後継続的に実施するために、「木育マスター」を育成し、教育現場や地域で広く活動を行うことにより、県産木材の利用拡大につなげる。</p> <p>「木育マスター」育成事業 17,000千円</p>				<p>5 事業説明</p> <p>(1) 事業内容 「木育マスター」育成事業 木材及び木育の知識や人に伝えることができるスペシャリスト「木育マスター」を育成する。(7月～2月) 17,000千円</p> <p>(2) 事業計画 「木育マスター」の育成(平成26年度～平成27年度)</p> <p>(3) 事業効果 ・県産木材の供給量 84,000m³(平成24年度) 101,000m³(平成27年度) 教育関係者、木材関係者及び地域活動指導者に対し「木育マスター」を年間約30人育成 2年間で60人育成 県内各地で自主的な木育等環境イベント等を開催することができる。 幼稚園・保育園での木育実技による参加者(年間約6,000人：75施設(子ども・保護者含む)) 子ども 木の良さを体感し、健全な育成に寄与するとともに、県産木材の積極的な活用が図れる。 保護者 木の良さを理解し、住宅建設時に木造住宅を選択することによる木材利用の促進が図れる。 また、木製家具や木製おもちゃ等への転換により木製品の普及が図れる。</p> <p>(4) 県民・民間活力、職員のマンパワー、他団体との連携 ア 「木育の推進を目指し協力・連携について」を農林部と埼玉大学教育学部に覚書に基づき、大学と協働して木育を行う。 イ 「木育マスター」は、地域やNPO法人等が行っている木育を通じた等環境保全活動等の実施に参画する。</p>				
<p>2 事業主体及び負担区分 (県10/10)</p>								
<p>3 地方財政措置の状況 なし</p>								
<p>4 事業費に係る人件費、組織の新設、改廃及び増員 9,500千円×0.4=3,800千円</p>								
				財 源 内 訳				
予算額								一般財源
決定額								前年との 対比
前年額								00